

## (7) コミュニケーションとその方法

最近の「手話」の普及から、聴覚障害者といえはすぐ、「手話」が頭に浮かぶ方が多いかと思われれます。確かに多くの聴覚障害者は「手話」を使っていますが、そのほかの手段もあります。

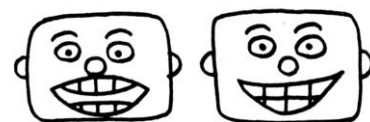
耳からの情報が入りにくいため、音声だけによるコミュニケーションにはおのずと限界があります。しかし、補聴器をかけて残された聴力を活用したり、筆談などの視覚を生かしたりしたコミュニケーションの方法も使われています。

### ① 口話(こうわ)

読話(どくわ)は、相手の口の形や唇の動きを見て話を読み取ります。これは、全く手話を知らない人とのコミュニケーションには有効です。暗いところやまぶしい位置、遠くからでは見えにくいものです。また、間違っ  
て読み取ったり、聴覚障害の人の発音が相手に分かってもらえなくて、話の行き違いが生じたりすることもあります。

はっきりと発音する

え き



### ② 筆談

互いに文字を書きながらコミュニケーションする方法です。

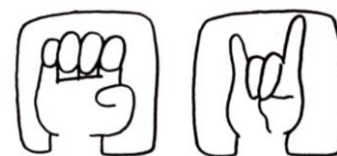
筆 談



指 文 字

### ③ 指文字

五十音に相当する指の形があり、それによってことばを表していきます。



(えに似ている)

(きつね)

### ④ 手話

手の形や動き、顔の表情などから話のやり取りをする方法です。「日本手話」と日本語に対応させて手話を表す「日本語対応手話」があります。

手 話

聴覚障害者が使っている手話は、日本語と違う体系をもつ「日本手話」です。多くの聾学校では、「日本語対応手話」を使用しています。

駅



今日では聞こえる人の中にも興味をもって学ぶ人も増えてきました。